

令和3年度 事業実績書

自 令和3年4月1日～至 令和4年3月31日

久木田学園看護専門学校

| 事業日程 | | | | 事業内容 | |
|------|------|----|-------------------|----------------------------------------------|------------------|
| 年 | 月 | 日 | 曜 | | |
| 令和3年 | 4 | 1 | 木 | 新任教員辞令交付式、新任教員オリエンテーション(2日まで) | |
| | | 2 | 金 | 始業式(3年生) | |
| | | 7 | 水 | 入学式 始業式(2年生) | |
| | | 8 | 木 | 1年生オリエンテーション(9日まで) | |
| | 5 | 6 | 木 | 学生健康診断(レントゲン検診) | |
| | | 21 | 金 | 学生健康診断(内科検診) | |
| | 6 | 6 | 日 | オープンキャンパス | |
| | | 10 | 木 | 1年見学実習(11日まで) | |
| | | 20 | 日 | 自己推薦入試(6月募集) | |
| | | 25 | 金 | 職員健診 | |
| | | 27 | 日 | オープンキャンパス | |
| | 7 | 11 | 日 | 自己推薦入試(7月募集) | |
| | | 26 | 月 | 夏季休暇(1年生、2年生 8月31日まで) 夏季休暇(3年生は実習により調整する) | |
| | 8 | 8 | 日 | オープンキャンパス | |
| | | 29 | 日 | 自己推薦入試(8月募集) | |
| | 9 | 5 | 日 | オープンキャンパス | |
| | | 26 | 日 | 自己推薦入試(9月募集) | |
| | 10 | 16 | 土 | 指定校推薦・推薦・一般・社会人入試(10月募集) | |
| | | 29 | 金 | 防災訓練 | |
| | 11 | 13 | 土 | 一般入試・社会人入試(11月募集) | |
| | | 19 | 金 | 交通安全 | |
| | 12 | 10 | 金 | 戴帽式 | |
| | | 11 | 土 | 一般入試・社会人入試(12月募集) | |
| | | 23 | 木 | 冬季休暇(1月5日まで) | |
| | 令和4年 | 1 | 22 | 土 | 一般入試・社会人入試(1月募集) |
| | | 2 | 19 | 土 | 一般入試・社会人入試(2月募集) |
| | | 3 | 8 | 火 | 卒業式 |
| 12 | | | 土 | 一般入試・社会人入試(3月募集) | |
| 16 | | | 水 | 終業式 | |
| 17 | | | 木 | 春休み(4月6日まで) | |
| 21 | 月 | | 高圧気中開閉器、高圧LBS更新工事 | | |

久木田学園看護専門学校 令和3年度 事業実績報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. 鹿児島県等の看護教育に対する指導等と学校の取り組み

1) 授業について

- (1) 令和3年度開始当初は、授業は感染予防対策を徹底しながら対面での授業が、計画通り実施できた。
- (2) 鹿児島市内の新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、実習施設によっては臨地での受け入れを中止する施設もあった。受け入れ中止の領域の実習は、昨年度計画した学内実習計画に基づき、学内実習に変更して実習を行った。2年目の学内実習だったため、各領域の担当教員は事例の修正を行いながら、学習が進むよう紙上展開と演習を組み合わせ、学習目標の到達に向けて指導を行った。学内実習のための日本看護教育協議会実習補完DVD、医学映像教育センターの配信サービスは令和2年度から引き続き継続して授業に活用した。
- (3) 鹿児島県・看護協会の実習補完事業として高機能シミュレーター(scenario)の貸し出しを申請し、5月よりシミュレーターを活用した学内実習ができるようになり、成人看護学Ⅱ実習・在宅看護論実習の学内実習で、シミュレーション学習ができた。
- (4) 全授業終了時学生に授業評価用紙を配付し、評価をしている。
- (5) 令和2年度より学生の学修を可視化する目的で、GPA制度を継続し活用し、学生の学習到達度を数字で評価する目的で使用している。今年度末に1年間の学修状況については、GPAを用いて客観的評価を各学年行う予定である。

2) 学習環境の整備について

- (1) 昨年度に引き続き感染対策の強化を継続して行った。学校側でアルコール消毒薬・マスク・フェイスシールド等の確保を行い、学生に配布をした。学習環境の整備として、各学年教室には以前から配置してあった空気清浄機、サーキュレーターの活用、随時教室内の換気、グループワーク時の少人数での実施やフェイスシールドの着用等を実施した。また、三密を避けるなど『新しい生活様式』のリーフレットを校舎内に掲示し、学生への意識づけに努めた。鹿児島県でまん延防止重点措置が適用された時期は、教室面積と学生数の関係が密になる環境においては、教室を2か所使用し、対面授業とオンライン授業を同時に並行して行う授業形態とした。
- (2) ICTの整備については、昨年度講師用パソコンの新規買い替え、リモート会議用パソコンの新規購入を行った。しかし、状況により遠隔授業が必要になると設備の面では不足が生じた。新型コロナウイルス感染拡大及び災害時等の不測の事態にも対応でき、通常の授業の中でICTの活用ができるためにはパソコンやiPadの整備を行う必要があったため、文科省の遠隔授業活用推進事業を活用し、パソコンの補充等の整備を行った。IPEの授業の中で、パソコンを使用したオンラインでのグループワークや、新型コロナウイルス感染症感染対策で自宅待機となった学生に対しオンライン授業の提供及びパソコンの貸し出し等の対応ができた。今後も継続してIPE(多職種連携教育)授業等にICT活用を計画していく。

3)新規実習施設の開拓

- (1) 小児看護学Ⅰ実習：日之出保育園
- (2) 在宅看護論実習：訪問看護ステーションよつば

新カリキュラム実習施設として

- (3) 高齢者福祉センター
- (4) 地域包括支援センター
- (5) 子育て支援センターりぼん館
- (5) 南風病院緩和ケア病棟

2. 新型コロナウイルス感染症対策への取り組み

- 1)新型コロナウイルス感染症感染拡大を防止するために、感染の状況に併せてその都度マニュアルの見直しを行い、学生及び教職員に周知を図った。また、鹿児島県内の感染の状況に変化が見られた際は、保護者にも協力を得るために学生・保護者宛の文書を配布した。また、新型コロナウイルス感染症については、厚生労働省の通達及び鹿児島県からの通達に注意をはらい、常に新しい情報で行動できるようマニュアルもその都度更新した。その他、校内各場所に注意喚起等の掲示物を掲示し、学生が新しい生活様式に順応できるよう努めた。
- 2)学生・教職員のワクチン接種の推進
令和3年度に入り、新型コロナウイルスワクチン接種が推進され、本校は医療施設を関連施設に持っていない学校であることから、接種先の確保が重要となった。そのため鹿児島県に問い合わせを行い、医療従事者枠での早期接種と接種先の医療施設の確保をお願いした。実習施設での接種が可能な一部の学生を除き、1.2年生及び教職員は医療従事者枠で鹿児島大学病院において6月～7月に一斉接種を2回受けることができた。現在は3回目の接種券が届いた順に体調や学業・業務に支障をきたさない時期に接種するよう促している。
- 3)行動記録・体調管理表の記載を学生及び教職員に義務付け、行動の自粛と健康管理の維持に努めた。体調不良者が出た場合は、自宅待機とし体調の回復をするまで出席停止（公欠）とすることにし、講義時間数を補う目的で補講を行った学生もいた。体調が回復した場合の出席停止期間は、オンライン授業の整備が終了した時点から学生には自宅で授業が受けられるようにする等いずれも学生に不利益が生じないよう配慮を行った。
- 4)教職員が授業開始前に一斉に校舎内のアルコール消毒を行い、授業終了後は学生が教室内のアルコール消毒を行う等教室内の清掃・消毒を徹底した。
また、手指衛生の徹底を図り、校舎・実習棟入口に自動のアルコール消毒液噴霧と検温ができる機械を設置した。
- 5)鹿児島県外への外出の自粛・教職員出張の中止・学会・研修会等の参加をWeb参加に変更した。
県外からの業者の来校も中止し、県内の業者等の来校時は検温等の確認を行った。
- 6)オープンキャンパス・入学試験の際も感染対策を十分配慮し、オープンキャンパス時は密を避ける・少人数のグループで行動を分ける等の計画を立て、教職員はマスク・フェイスシールドを装着して対応した。また、入学試験の際の面接では上記対応策と飛沫防止フィルムの使用も併用した。

オープンキャンパス・入学試験それぞれ参加者・受験者にはホームページ上で県外・県内在住者別に開始時間の区別をアナウンスした。

3. 令和4年度カリキュラム改正に伴う学則(教育課程)変更承認申請に向けた準備

1)カリキュラム検討委員会の設置と活動内容

令和2年度からカリキュラム検討委員会を設置し、1回/月のペースで自校の現行カリキュラムの問題点から順に検討を行った。令和3年度に入り、委員会で具体的な教育内容の抽出及び科目の構成等を検討した。新カリキュラムの科目設定が出たところで、臨地実習施設について既存の実習施設に加え、新しい実習施設の必要性が出てきたため、実習施設の開拓も同時に行った。

2)教員向け新カリキュラム研修会の受講計画

令和2年度に引き続き、令和3年度も医学書院のカリキュラム改正に向けた教員セミナーのオンライン受講を全教員で行った。その他看護協会・教育協議会主催の研修会もオンラインで計画的に受講し、臨床判断能力・ICT活用・シミュレーション教育・ルーブリック評価・リフレクション等新カリキュラムが施行される令和4年度の授業に役立つ内容の研修も受講している。

3)役割分担と各教職員に向けた申請書類の準備計画の提示

変更承認申請の必要書類と作成責任者・提出期限を計画し、ほぼ計画通りに準備が整った。また、教育課程の内容については、検討に十分な時間が必要であり、教員が残業せずに取り組める体制作りが必要と考え、学生の夏季休暇期間に時期を絞り、作成を依頼した。

4)新カリキュラムでは、本校の特色である東西両医学から看護を学ぶ特色を生かし、東洋医学の時間数の増加、看護情報学・看護倫理・国際看護等現行カリキュラムで不足が生じているの学習内容を追加した内容で作成を行った。

5)現行カリキュラムでは、臨地実習においては1時間60分の考え方で、講義1時間45分とは異なる時間数だったものを、すべて統一した考えで1時間45分とした。

4. 遠隔授業活用推進事業申請について

1)本校における遠隔授業の整備は、Wi-Fi環境はあるもののハード面の整備が遅れ、遠隔授業に活用できるパソコンやソフトの導入が必要だった。そこで文部科学省の令和3年度遠隔授業活用推進事業を申請し、整備事業に取り組むこととした。整備事業ではオンライン授業でのパソコンやiPadを活用した授業の実施、災害時の学生への貸与を速やかに行う等を計画した。

5. 看護師国家試験対策の実施

1)過去問題を中心に早期から学習習慣について指導し、模擬試験も定期的実施した。模擬試験の際は事前に目標値を挙げてもらい、達成できるよう促した。また、模擬試験結果から学習について3年生担当教員が指導した。

2)国家試験強化対策について

小児看護学、母性看護学、内分泌系病態学の補講を3年生担当教員が実施した。また、12/13より学校の開放を19:00迄実施し、3年生は教室を利用して学習に集中して取り組んでいた。

3)新型コロナ感染対策について

1月の成人式を挟み、県内の新型コロナウイルス陽性者数が増加し、まん延防止重点対策の適用もなされる状況となったため、3年生はできるだけ自宅での学習を促し、出校を強制しないように配慮した。しかし、成績低迷者の学習支援ができないため、学習の状況を電話等で確認した。

【看護師国家試験合格状況】

| | 本校合格率 | 新卒者全国平均 |
|--------------|-------|---------|
| 平成 30 年度 合格率 | 78.6% | 94.7% |
| 令和 元年度 合格率 | 89.5% | 94.7% |
| 令和 2 年度 合格率 | 86.4% | 95.4% |
| 令和 3 年度 合格率 | 72.7% | 96.5% |

- 3) 今後の対策として、成績低迷者の学習支援として、必修対策や学習方法の指導が不足するため、帰校日には必ず必修対策を時間割に入れ、8月を目安に合格圏内を目指す、また早期から学習方法の確認や国試対策への取り組みの確認をしていく必要がある。
- 4) 学校全体で、国家試験全員合格の目標達成のための計画を立て、低学年の模擬試験実施と振り返り学習の指導等の対策を重視していく。

6. 就職対策

- 1) 県内就職希望者が大半であり、令和3年度県外就職希望者は0名だった。
今年度も公立病院系は早期から就職試験が開始される。希望調査を新学期早々に行い、就職相談を実施する。
- 2) 11名の卒業生の進路

| | |
|-------------------|----|
| 看護師として鹿児島県内就職者 | 10 |
| 看護師資格取得・助産学科進学者 | 0 |
| 看護師として鹿児島県外就職者 | 1 |
| 准看護師として鹿児島県内就職予定者 | 0 |

7. 学生募集活動

- 1) 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度の高等学校訪問は6月から、訪問可能な高等学校のみ県内の各高等学校を訪問。進路指導の教諭に受験生の状況を確認し、受験のお願い、オープンキャンパスの参加を勧めて頂くよう依頼した。しかし、高等学校によっては進学校を中心に訪問を断られる学校も数校あった。
- 2) 高等学校進学ガイダンスも新型コロナウイルス感染症の感染の状況により中止されたものもあったが、実施されたガイダンスについては、募集要項の説明など自校のアピールを行った。

8. ボランティア活動

- 1) 新型コロナウイルス感染症の影響により、久木田学園レオクラブの活動は今年度も行えていない。老人福祉施設等の行事参加も行事そのものが中止となってボランティアの依頼は無かった。